

採択大学等名

長崎大学

(共同申請校: 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学)

連携市町村名

川内村、富岡町、大熊町、双葉町

取組概要(目的)

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町、大熊町及び双葉町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会 (ICRP) や国際原子力機関 (IAEA)、経済協力開発機構 (OECD) といった国際機関と連携して**世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築する。**

◀人材育成目標▶

1. 災害・被ばく医療科学分野の正しい知識を持った上で、福島の復興、発展を主導できる人材を育成する。
2. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、国内において本分野を担う人材を育成する。
3. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、グローバルに本分野を担う人材を育成する。



図 長崎大学と連携町村における連携体制

大熊町・双葉町役場内に教員が常駐し、**「住民と行政、専門家が一体となった原子力災害からの復興モデル」**を実践、「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築する。

これまでの成果

1. 長崎大学川内村・富岡町・大熊町・双葉町復興推進拠点の充実

各自治体の復興フェーズに沿った環境放射能評価、放射線リスクコミュニケーション支援。

◆ 長崎大学復興推進拠点活動報告会

2. 福島県の将来を担うリーダー育成

- ◆ 夏季国内集中セミナー (複数セミナー併催)
- ◆ [福島大学] 環境放射能学セミナー
- ◆ [東日本国際大学] 復興学連続セミナー

3. 日本国内の人材育成

- ◆ [福島県立医科大学] 福島災害医療セミナー
- ◆ 原子力災害復興学セミナー
- ◆ 長崎大学浜通り研修

4. 福島県浜通りにおける「災害被ばく・医療科学分野」のグローバル人材育成

◆ 災害・被ばく医療科学国際セミナー (International Advanced Training Course)
長崎大学修士大学院生を対象に、ICRPやOECD/NEAといった国際機関、海外の大学や研究所の専門家を招聘してトレーニングコースを開催した。

- ◆ [福島県立医科大学] 救急医学実習
- ◆ 災害・被ばく医療科学セミナー (グローバル研修)
- ◆ ウクライナ学生浜通り研修

戦禍にあるウクライナからの留学生を対象に、福島の実地災害からの復興の現状を知り、将来のウクライナの復興を考えてもらうことを目的として実施した。

*2023年11月末までの概算

2021年から3年間で学生666名、社会人377名が本事業のプログラムを受講*



事業終了時点の成果及びその後の見通し

【事業終了時点の成果】

1. 福島県の将来を担う人材として、福島県下の高校生、大学生からリーダーを育成するシステムを浜通りに構築する。
2. 連携自治体の教職員や行政職員、全国の原発立地自治体やその周辺自治体の職員の過半数に災害・被ばく医療科学の基礎知識を得てもらい、将来の災害に適切な対応ができる人材を育成する。
3. 国際セミナーに参加した若手研究者のうち、優秀な人材について国際機関のインターンシップ (長期研修) を紹介し、将来的には国際機関のリーダーが浜通りで学んだ経験を持てるような環境を整える。

【事業終了後の見通し】

連携自治体 (川内村、富岡町、大熊町、双葉町) や福島県下の大学 (福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学)、それに各自治体のNPO (一般社団法人がわうちラボ、一般社団法人とみおかプラス、一般社団法人おおくまづくり公社) との連携体制をさらに強化し、事業を継続するとともに事業内容をより充実する取組を展開する。